



発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 巻頭言 教育の評価について

歯学部長 榎 宏太郎

我々の講義や実習は、学生に、どのように、どれだけ役に立っているのだろうか？もっと分かり易い授業には何が必要だろうか？教員の皆様は、常々、その立場ごとに、様々な観点から自らの教育方法について自問されていることでしょう。



大学における授業の評価は、平成3年の大学設置基準の改定で大学の自己点検やFDの重要性が指摘されたことによって大きく前進しました。しかし、現在用いられている授業評価の方法は様々で、評価の対象や実施すべき時期、実施方法、結果のフィードバック方法など、検討しなければならない課題も多く残されています。とくに、授業評価をアンケート形式で行う場合に、記名とすべきか無記名でいいのか、という大きな問題もあります。これに関してはかなり研究されており、記名式と無記名式のアンケート評価において統計的な有意差はみられないとする報告が多くあるようです。しかし、その一方では、記名式では評価が高い傾向になる、とする結果も知られております。また、記名式では、とくに学生数が少ない場合に回答者が不利になることも懸念されますし、無記名式では、クレームの類いが多くなり信頼度にも不安が残るかもしれません。しかし、授業は、教授者から学習者への一方向ではなく、相互に作用し合う双方向性の過程である方が質も効果も上がります。したがって、学習者の忌憚のない率直な意見を知ることは、教育の改善を進める基本と思われまます。新しいカリキュラムの評価、組織的な教育体制の構築など、様々な場面で、モニタリングされた情報の有用性は極めて高いのではないのでしょうか。

学部長を拝命してから半年が経ちましたが、この間に、歯学部の学生諸君に無記名のアンケートを実施致しました。私自身が、2年生や3年生の学習の状況や要望を十分に把握していなかったからです。

D2～D6の全員に、過去を振り返り、本歯学部の教育で、良かったことや改善してほしいことを記述してもらいました。ほぼ全員が回答してくれました。詳細は教授会等で報告させていただきますが、非常に素晴らしい建設的な意見も多く見られました。中には対応す

ることの叶わない要求もあります。しかし、こんなにも関心を持って回答してくれたという心理の裏には、もっと教授者と学習者の意見交換を頻繁にして欲しい、という思いが含まれているのかもしれませんが、この点をも我々はもっと考えるべきではないでしょうか。

## 科学研究費補助金 研究活動スタート支援内定状況

研究活動委員会委員長 美島 健二

日本学術振興会は8月30日に令和元(2019)年度科学研究費助成事業(研究活動スタート支援)の審査結果の交付内定結果を公表しました。本研究費は、研究機関に採用されたばかりの研究者や育児休業等から復帰する研究者等が1人で行う研究に対して交付されるものです。歯学部全体の交付内定状況は下表の通りで、交付内定者は6名でした。歯学部からは全体で21課題の応募がなされておりましたので、採択率は28.6%となりました。本年度の採択率の全国平均はまだ公表されておりませんが、前年度の25.3%と比較すると本歯学部の採択率は3%程度高く、若手教員の皆さんが尽力された結果といえます。

歯学部全体の研究レベルのボトムアップには、今後ますます若手教員の活躍が不可欠となります。次年度も本年度にまして多くの課題が採択される事を期待します。

所属	氏名	研究課題名
口腔腫瘍外科学	守谷 崇	嚙下の中樞パターン発生機構の解析
美容歯科学	長谷川(寺島)実華子	歯周疾患治療法の確立に向けたポリリン酸の抗炎症作用の解明
顎顔面口腔外科学	頌彦(瀧本)玲子	末梢血単球を標的としたゾレドロン酸の新規骨吸収抑制メカニズムの解明
歯科補綴学	塚原 明弘	超高齢社会における義歯開発に向けたタンパク付着抑制を持つMPCポリマーの応用研究
歯科理工学	周 君	10-MDPとHEMAによるレジジン-象牙質接着面ハイブリッド層のバイオメカニクス

## 行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 10月15日(火): 解剖慰霊祭
- 10月19日(土): 父兄会秋季部会
- 10月24日(木): 歯科医師臨床研修マッチング発表



## 昭和大学教育者のためのワークショップ （ビギナーズ）が開催されました

歯学教育推進室長 片岡 竜太

第10回昭和大学教育者のためのワークショップが、8月20日（火）～22日（木）に東京都府中のセミナーハウス クロス・ウェブ府中で開催されました。1974年から始まった医学教育者のためのワークショップ（通称富士研）で行われているWHO式カリキュラム・プランニングを基に、1995年に本学医学部で昭和大学医学教育者のためのワークショップが始まり、2010年に4学部合同で開催されるようになってから10回目となります。

本WSの目的は、学習者を主体とした教育カリキュラムを作成する手法を参加者に体得してもらうことです。今回歯学部からは、タスクとして片岡教授、丸岡教授、伊佐津准教授、野中准教授、参加者として滝口准教授（歯周病）、石崎講師（口腔衛生）、安原講師（口腔病理）、葭葉講師（口腔外科）、井上助教（口腔解剖）、三田助教（歯科補綴）、嘉手納助教（障害者歯科）が参加しました。

4学部と看護専門学校の教員が混ざった5グループに分かれ、チーム医療コースの初年次のコミュニケーション入門、チーム医療入門、地域医療実習、4年次の医療コミュニケーション、6年次の学部連携地域医療実習のユニットの「目標」「方略」「評価」をグループメンバーと協働して作成しながら、学習者が到達すべき目標を設定したうえで、教育する方法、評価する方法についてプロダクトを作成していただきました。

われわれタスクは何度もこのWSに参加していますが、毎回わからないことや気づきがあり、カリキュラム・プランニングの奥の深さを実感しています。この経験を生かして、学生にわかりやすく、目標に到達しやすいシラバスを作成していただければと思います。



## 第15回 昭和大学ファシリテータ養成 ワークショップに参加しました

インプラント歯科学講座 藤井 政樹

このたび、チーム医療を实践する基盤を構築するために行われている学部連携PBLのファシリテータ養成ワークショップに参加させていただきました。

初日は学生の視点で参加し、実際にステップ1～5（シナリオ読み、キーワードの抽出から学習項目の決定）を行いました。また、2日目午前は、フィードバック

について、午後はファシリテータの役割について、ファシリテータの視点で勉強させていただきました。自分が実際に行ってみることで、はじめてのチームにおける緊張感、性格や職種によって生じる問題を実際に体験できました。またその際タスクの先生にファシリテートしていただくことを経験しました。実際に経験することにより、問題を解決していくために必要なコミュニケーションやリーダーシップの重要性を再認識しました。

今後ますます高齢化が進むことによる問題の複雑化、それを解決するために必要な他業種連携において重要な役割を果たすPBLについて深く学ぶことができ、非常に有意義な時間がすごせたことを感謝いたします。また今回学んだ内容はPBLのみならず、日々の学生や研修医の指導においても意識し、よりよい教育が行えるよう頑張りたいと思います。



## 昭和大学教育者のためのワークショップ （ビギナーズ）に参加しました

口腔解剖学講座 井上 知

8月20日～22日までクロスウェブ府中で行われたワークショップに富士吉田教育学部、医・歯・薬・保健医療学部、看護専門学校から教職員35名が参加しました。



昭和大学における教育の問題点の抽出、カリキュラム作成から評価について、グループワークを行い、学部を超えてディスカッションを行い、グループごとに発表を行いました。ディスカッションはとても熱く、意見が異なることもありましたが、グループとして一つのプロダクトを生み出すことができました。グループ内でのディスカッション、発表会を通じて、昭和大学がどのようなことを大切にして、教育を行っているかを知ることができました。また、夜に行われた懇親会では他学部、他科の先生と情報交換をすることができ、今後の研究活動につながるとも良い話がありました。3日間のとても濃厚な時間の中で、教育とチームワークの大切さを改めて学ぶことができました。今回のワークショップで学んだことを、教育の現場に生かしていきたいと思います。

最後になりましたが、本ワークショップを主催・運営して下さりました方々に厚く御礼申し上げます。

## 昭和大学教育者のためのワークショップ(ビギナーズ)に参加しました

口腔外科学講座 葎葉 清香

8月20日～8月22日にかけてクロスウェーブ府中で教育者のためのワークショップ・ビギナーズコースが開催されました。医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部、富士吉田教育学部の各学部より参加者が集まり、5グループに分かれて、教育カリキュラムの作成に取り組みました。カリキュラムの作成の時間の合間で、教育に対する考え方、興味を抱かせる講義形態や効率的に学習させるポイントなどについて、タスクフォースの先生方から講義がありました。

いずれのグループにおいても3日間という時間を共に過ごす事で、次第にコミュニケーションが取れるようになり、学部や職位を超えて、お互いを理解しようとする会話が出ていました。臨床や研究から切り離された環境で、教育とは何かから、教育目標の立て方、方略、評価法について学び、実際にカリキュラムを作成する事で、教育を行うに当たっての準備は緻密でかつ膨大な時間がかかる事と、我々教員も常に学びを繰り返していく事が大学人として必要になると改めて感じました。今回のワークショップで学んだ考え方が少しでも活かせる機会を増やしていきたいと考えております。

タスクフォースの先生方、参加者の先生方、学事部の関係者の方に大変お世話になりました。この場をお借りしまして感謝を申し上げます。



## 全日本歯科学生総合体育大会が開催されました

歯学部4年 古寺 伸輝

全日本歯科学生総合体育大会(オールデンタル)は日本の全ての歯学部が参加する歯学生のスポーツの祭典で、大半の競技は夏季に行われますが、ラグビーフットボール、スキー、アメリカンフットボールは冬季開催となり、夏季の開催に先駆けて行われます。現在の夏季開催種目数は23で、規約に従って、競技部門ごとに優勝校から順に得点を与え、夏期・冬期の合計点数の多寡で総合優勝校を決定します。今年度のオールデンタルは通算して第51回となり、福岡歯科大学の事務主管のもとで開催されました。総合優勝は九州歯科大学歯学部で、総合閉会式で優勝旗・優勝杯(ともに持ち回り)をもって表彰されました。本学からは14部門に参加し、総合成績は全29大学中第6位と、昨年よりもさらに健闘しました(昨年

度7位)。特に弓道部と水泳部は総合優勝し、バドミントン部は第3位、陸上部は第2位と躍進しました。

今後も、本学学生がクラブ活動を通じて心身の健全な発達を獲得し、自己責任、克己心やフェアプレーの精神を培うとともに、オールデンタルへの参加を通じて仲間や指導者、他大学の学生などと交流し、豊かな心や他人を思いやる心を育むことを期待します。



## 全日本歯科学生総合体育大会弓道部門で優勝しました

歯学部4年 船橋 宗利

歯学部弓道部は、7月30日～8月2日にかけて行われた第51回全日本歯科学生総合体育大会弓道部門において、団体戦 総合優勝、男子団体戦 優勝、女子団体戦 8位、女子団体敢闘賞という成績を収めることができました。

今大会は、明治神宮武道場 至誠館という由緒正しい道場で開催され、試合も賑やかな例年と異なり、静かで厳かな雰囲気の中行われました。そのような環境で初戦から気を引き締め、最後の試合まで集中し続けることで、男子団体は15戦15勝で優勝という結果を出すことができました。これは部員が一丸となって夏のオールデンタルにむけて一生懸命練習してきた成果が出たということもありますが、暑い中、お忙しいところ部員の試合を一目見ようと駆けつけて下さったり、飲み物などを届けて下さったりとOB・OGの先生方、部長先生の応援のおかげだと思っています。

来年度は、6年生が卒業し、新入部員が入り、新たなメンバーでオールデンタルに参加することとなります。優勝校という期待やプレッシャーもありますが、再び良い成績が残せるよう努力いたしますので、変わらぬご支援、ご声援のほど宜しくお願いいたします。

この度は本当にありがとうございました。



## 全日本歯科学生総合体育大会水泳部門で優勝しました 歯学部4年 岡田 昂己

歯学部水泳部は、8月7日・8日にかけて鹿児島県鴨池公園プールに於いて開催された第51回全日本歯科学生総合体育大会水泳部門に参加し、30年ぶりの男子総合優勝、そして水泳部創部以来初の男女総合優勝という成績を残すことができました。

1年を通して、歯学部の部員全員が今大会に向けて目標を高くもち、ベストを尽くしたことが優勝という結果に繋がったと思います。応援してくださったOB・OGをはじめ多くの皆様に心から感謝を申し上げます。

週3回という限られた練習時間の中、レースでベストタイムを出すにはどのようにすればよいかを考えながら練習に取り組み、共に優勝を目指して2日間戦い抜いた部員を誇りに思います。何より部員が自らの選んだ種目で楽しみながら試合に臨み、優勝できたことは大きな自信に繋がりました。また、マネージャーや他学部の部員の支えも大きな力となりました。

今後も、支えてくださっている皆様への感謝を忘れずに、強い意志をもって精進していきたいと思っております。来年度は優勝校というプレッシャーに負けることなく、二連覇を達成できるよう努めてまいりますので、今後とも変わらぬご支援、ご声援のほど宜しくお願い申し上げます。



## 全日本歯科学生総合体育大会陸上競技部門で準優勝しました 歯学部4年 近江 京香

歯学部4年 近江 京香

私たち陸上部は、8月4日に長野県で行われた第51回全日本歯科学生総合体育大会陸上競技部門にて準優勝という結果を納めることができました。全体で準優勝だけではなく、大会MVP、大会新記録、多くの種目で表彰台に登るといった結果を残すことができました。選手同士が、切磋琢磨し合い、自分との戦いに負けることなくこのような結果を残せたことを誇りに思います。

私たち昭和大学陸上競技部では、全学部合同で練習を行っています。陸上競技は、基本的に個人種目ですが、チームとして団結し、お互いに良きライバルとして認め合い、部全体としてより良くなるように努力を続けています。

今回の全日本歯科学生総合大会でこのような優秀な成績を納める事が出来たのは、私たちの活動をご支援してくださるOB・OGの方々、大学の先生方、顧

問である堀川先生など、多くの方々のおかげです。これからも、一段と活躍しよい結果を残せるよう絶えず精進し続けますので、変わらぬご支援、ご声援をよろしくお願い申し上げます。

来年の全日本歯科学生総合大会は、ただ一つ「優勝」を目指し、個人としても団体としてもレベルを上げ、怪我のないよう活動していきたいと思っております。



## 全日本歯科学生総合体育大会バドミントン部門で3位入賞しました

歯学部4年 廣松 幹太

第51回全日本歯科学生総合体育大会バドミントン部門が8月6日～10日までの5日間、福岡市総合体育館で23校が参加して開催されました。

予選リーグを1位で通過した男子団体戦は、決勝トーナメントで決勝戦まで勝ち進み、日本歯科大学生命歯学部にも惜しくも敗れ、準優勝を果たしました。また、部員全員がそれぞれの試合に勝ち進んだ結果、男女総合3位に入賞を果たせました。

個人戦では、男子ダブルスで平田浩己さん(歯学部6年)、中原颯太さん(歯学部2年)がベスト8、女子シングルスでは、寺井智香恵さん(歯学部6年)がベスト16、女子ダブルスで新家由佳理さん(歯学部5年)、相馬有希さん(歯学部5年)がベスト16という結果でした。



## 編集後記

歯周病学講座 滝口 尚

吹き抜ける風や虫の声に秋の訪れを感じるようになりました。秋といえば、スポーツの秋、本号でも学生がスポーツで活躍する記事が多く寄せられました。

ご寄稿下さいました皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、台風15号の影響により被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。